

第123号
2019.8 発行

総研大

NEWSLETTER



総研大 Topics

社会連携事業「中高生のための科学セミナー」 / JSPS サマー・プログラム 2019 /
湘南国際村フェスティバル・総研大講演会「ヒトの進化：環境・文化とゲノム」 / SOKENDAI KEK
Tsukuba/J-PARC Summer Student Program 2019/ 高エネ 大学院説明会/遺伝学専攻 大学院一日体験会/
生命共生体進化学専攻 講演会・説明会 / 生命共生体進化学専攻 オープンキャンパス開催 /
生命共生体進化学専攻 研究体験 2019 / 事務職員の意見交換会を実施

受賞情報 / プレスリリース / メディア等出演・掲載情報 / イベント情報 / お知らせ

S O K E N D A I

7/31

「中高生のための科学セミナー」を開催

2019年7月31日、総研大が主催する夏休み恒例の講演「中高生のための科学セミナー」が、横須賀市自然・人文博物館で開かれました。12回目を迎えた今回のテーマは『はやぶさ』から『はやぶさ2』へ小惑星のかけらから探る太陽系の謎。セミナーの直前に、探査機「はやぶさ2」が小惑星「リュウグウ」への2度目のタッチダウンを成功させる、というニュースが舞い込んだことも影響してか、セミナーへの事前の参加申し込みが定員の100名を超える人気でした。

講師を務めたのは、宇宙惑星科学や隕石学などが専門で「はやぶさ2」の探査にサイエンスメンバーとして参加している教育開発センターの小松睦美助教です。セミナーではまず、小惑星が地球などの惑星と異なり溶解を経験していないことから太陽系の古い情報を持っており、そこから採取した物質を調べることで、太陽系がどのように進化し、生命の起源となった物質がどこから来たのかを明らかにする可能性があることが、説明されました。

そして、「はやぶさ」初号機の探査過程や成果が動画を交えて語られ、初号機が報道などで伝えられている以上に大小様々なトラブルに見舞われていて、世界初の快挙となった小惑星イトカワからのサンプルリターンも、言わばトラブルの産物だったことなども紹介されました。



その後、現在探査中の「はやぶさ2」のミッションに関する動画が始まると、参加者たちは画面に食い入るように見入っていました。質疑応答では、「はやぶさとははやぶさ2では、どんな点が変わったのか」、「地球に巨大な隕石が落ちてくることを予測したり、対処したりできるのか」という質問が続々と上がりました。また「将来宇宙に関わる仕事がしたいが、高校生の今、しておくべきことは何か」といった質問も上がり、小松助教からは「数学を頑張ることに加えて、国際的なプロジェクトでは英語で意思疎通できることが前提となるので、英語に力を入れておくことが重要」というアドバイスが贈られました。

現在進行中のビッグプロジェクトに関わる講師から話を聞ける機会ということで、セミナー終了後も小松先生の前に子ども達の列ができ、質問が絶えませんでした。このセミナーをきっかけに、子ども達がさらに、宇宙科学や惑星科学への興味・関心を深めてくれることを期待いたします。

【総合企画課広報社会連携係】



JSPS サマー・プログラム 2019

2019年6月12日から7日間、「2019年度 JSPS サマー・プログラム」のオリエンテーションが湘南国際村センター（葉山）で実施されました。各国の学術機関による選抜を経て、英国、フランス、ドイツ、カナダ、スウェーデン及びアメリカ合衆国の6カ国から博士課程取得前後の若手外国人研究者（フェロー）97名が来日し、それぞれの受入研究機関に向かうまでの1週間を葉山で過ごしました。

オリエンテーション期間中、John BREEN氏（国際日本文化研究センター）による日本の天皇制と皇位継承に関する特別講義や、レベル別に10クラスに分かれての日本語授業、また、日本での研究計画について各自が用意したポスターをもとに意見交換するポスタープレゼンテーションなど、フェロー達には盛りだくさんのプログラムが用意されました。

その合間の鎌倉観光では、鶴岡八幡宮と高德院（鎌倉大仏）へ見学に行きました。晴天にも恵まれ、リラックスした表情で古都鎌倉の風情を楽しんでいました。



週末は葉山町など首都圏の家庭で、ホームステイを体験しました。日本食作り、陶芸体験等、心のこもったおもてなしを受け、最終日には涙ながらにホストファミリーとの別れを惜しむ姿が方々で見られました。

オリエンテーションの締めくくりは、元東京藝術大学教授の安藤政輝先生の特別講義及び邦楽演奏でした。安藤先生からの日本の伝統楽器についての説明に続き、箏、尺八、三味線、十七弦を用いた6曲の楽曲の演奏があり、素晴らしい音色を動画に収めるフェローも多く見られました。演奏後のワークショップでは、フェローが長蛇の列を作り、箏や三味線、尺八といった楽器に直に触れ満喫した様子でした。

葉山でのオリエンテーションを終えたフェローは、全国各地の受入機関へと旅立ち、各自のテーマで2ヶ月間の研究に取り組みました。

8月20日（火）の報告会では、各国のフェローが再び集結し、代表のフェロー6名が、日本での研究成果をプレゼンテーションしました。

2ヶ月間という短い期間ではありましたが、日本の大学や研究機関での体験を今後の糧として、フェロ

一が更に活躍されますことを心より祈念いたします。【総合企画課広報社会連携係】



湘南国際村フェスティバル・総研大講演会「ヒトの進化：環境・文化とゲノム」を開催

2019年5月3日、湘南国際村フェスティバル初日は、この時期らしい爽やかな天候に恵まれ、葉山キャンパスには、村内を巡るスタンプラリーに参加する子ども達が大勢訪れるなど、普段とは違う賑やかな雰囲気に包まれました。

そうした中開催された総研大講演会には、120名を超える参加者が訪れました。参加者の約半数は3回目以上というリピーターで、地域の多くの方々に、毎年この講演会を楽しみにしていただいております。

今回は、先導科学研究科の颯田葉子教授を講師に迎えました。「ヒトの進化：環境・文化とゲノム」をテーマに、人類がアフリカから出現して世界に拡散する中で様々な生活様式や文化に適応してゲノムの変化を起こした過程が、稲作とアルコール耐性や、チベット高原の住民の高地順応など、具体的な地域を例に挙げて説明されました。

参加者たちは、お酒に強いかわるかや牛乳を飲むとおなかゴロゴロする、といった身近な事柄とゲノムの関係についての説明に、興味深そうに耳を傾け、質疑応答の際にも次々と質問が挙がっていました。

【総合企画課広報社会連携係】



颯田教授による講演



SOKENDAI KEK Tsukuba/J-PARC Summer Student Program 2019 を開催

7月9日（火）と10日（水）に、高エネルギー加速器研究機構（KEK）つくばキャンパスにて SOKENDAI KEK Tsukuba/ J-PARC Summer Student Program の共通講義と中間報告会が行われました。

同 Summer Student Program は、高エネルギー加速器科学研究科が留学生確保のために総研大本部の



ポスター発表の様子

広報経費支援を得て実施しており、今年で3回目となります。主に海外の学部学生・大学院生が KEK のつくばキャンパスと東海キャンパスに8週間程度滞在して、KEK で行われている実験や研究に実習参加するもので、今年はインド、ベトナム、ミャンマー、ロシア、中国、インドネシア、ドイツ、リトアニア、アメリカ、香港、ポーランド、イタリア、タイ、韓国、ウクライナから18名の若い学生が集まりました。今年新たな試みとして、総研大や KEK のプロジェクトに関心を持ってもらうべく、施設見学以外にも共通講義をコア期間である6月末から7

月にかけて実施しております。

9日と10日の講義と中間報告会には13名の学生が参加しました。講義では、総研大の概要や KEK が進めているさまざまなプロジェクトについて説明がありました。報告会では各学生が10分程度の自己紹介や自分の大学、母国、研究進捗などについて語りました。

さらに、10日午前の講義では、2008年のノーベル物理学賞を日本にもたらした「小林・益川理論」の説明の直後、隣の部屋から小林誠高エネルギー加速器研究機構特別栄誉教授が現れるという演出があり、出席した学生を大いに沸かせました。小林特別栄誉教授からは、研究者の心構

えなど激励の言葉が送られ、その後参加者全員で記念写真撮影を行いました。

本プログラムは、冬に来日する学生もおり、現在も継続しております。

【高エネルギー加速器科学研究科】



小林特別栄誉教授と参加者との記念写真

高エネルギー加速器科学研究科 3 専攻（加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻）は、6 月 15 日（土）に学術総合センター（東京都千代田区）にて令和元年度第 1 回大学院説明会を、さらに、7 月 2 日（火）につくばキャンパスにて第 2 回大学院説明会（オープンキャンパス）をそれぞれ開催致しました。

6 月の大学院説明会では、冒頭で神山研究科長からの挨拶、総研大および研究科紹介の後、各専攻所属の教員から専攻の特色などについて説明がありました。続いて参加者は、加速器科学専攻、物質構造科学専攻、素粒子原子核専攻（理論・実験）に分かれ、専攻長らを囲み懇談が行われました。参加者からは、研究環境、学生支援制度、大学院生活など数多くの質問が寄せられ、終了時間となっても質疑が終わらず、担当教員と後日の研究室訪問を約束して会場を後にする者もいました。



説明会の様子

7 月につくばキャンパスで開催の大学院説明会（オープンキャンパス）は、午前中の研究科・各専攻の概要説明に続き、昼を挟んで研究活動紹介のポスター発表会、施設見学と盛りだくさんの内容でした。ポスター発表会では、参加者は思い思いにポスターの前に足を止めては、説明者の説明に熱心に耳を傾けておりました。また、午後の発表会・施設見学には高エネ研究科のサマースチューデント・プログラムで滞在中の外国籍学生 11 名も合流し、活況を呈しておりました。

参加者からは、「研究分野が多彩で時間さえ許せばもっと話を聞きたいほどだった」、「加速器にこれだけ研究分野の広がりがあることに驚いた」、「総研大のイメージがとても良く掴めた」、など様々な感想がありました。

なお、今回新しい試みとして広報媒体に SNS を活用しており、梅雨の季節で悪天候にも関わらず東京での説明会には 25 名、つくばには 19 名と、それぞれ昨年度の約 1.5 倍から 2 倍の参加者を集めました。

【高エネルギー加速器科学研究科】

5 月 25 日、大学院一日体験会に参加するため、季節外れの猛暑の中、全国各所から 33 名の参加者が静岡県三島市にある遺伝研に集いました。まずはゲストハウスにて花岡専攻長から挨拶があり、遺伝研の紹介や研究生活についてなどの話がありました。その後、講堂に移動し、ポスターによる研究室紹介です。遺伝研では多彩な研究室がモデル生物やデータベースを用いて、論理、実験の様々な手法による多様な研

究がおこなわれているので、ポスターも多彩です。参加者は各研究室のポスターを囲んで熱心に研究者の話を聞いていました。それに応じて研究者の説明にも熱が入ります。ポスターで各研究室の研究を概観したのちは、お目当ての研究室を訪問して、実際の研究環境を見学し、研究者と直接話しました。研究環境を直に見学できたことは参加者にとって有意義な時間だったと思います。いくつかの研究室を廻ったら、最後に遺伝学専攻の大学院生との懇談会です。大学院生を囲んで、大学院生活、三島での暮らしなどさまざまなことについて話が弾んでいたようです。参加者の皆様には大学院一日体験会を通して、遺伝学専攻の優れた研究・教育環境、研究者、大学院生の熱意を感じ取ってもらえたことと思います。【生命科学専攻遺伝学専攻】



生命共生体進化学専攻 講演会・説明会の開催

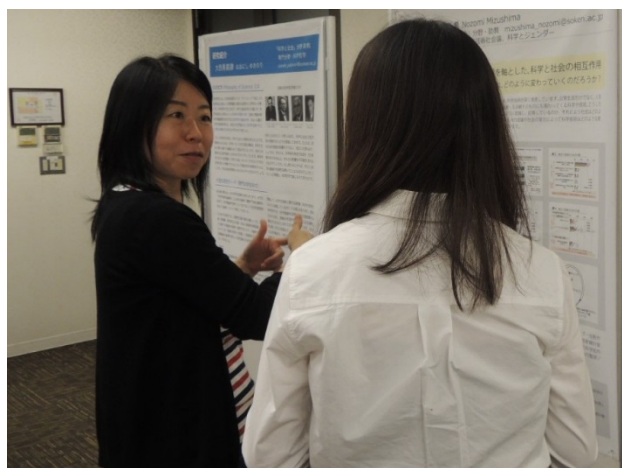
生命共生体進化学専攻は、5月18日（土）にTKP品川カンファレンスセンターANNEXにおいて専攻説明会・講演会を行いました。本専攻では毎年2回の説明会を開催しており、今年度初回となる今回は、合計7名の参加がありました。

前半の講演会では、本専攻における研究の中から最前線のテーマ「動物は情報をどのように伝え合っているのか?」、「アメリカ大陸への現生人類の移動～遺伝子からわかること～」、「サラブレッドの遺伝学」の3つの講演（後述）が行われました。



専攻概要を紹介する颯田教授

また、後半の専攻説明会では、本専攻の特徴とカリキュラムの解説に引き続き、専攻の各分野の教員から研究室の研究内容について紹介がありました。ポスター発表では、参加者から、研究内容に関する議論のみならず、大学院に入学した際のテーマの選び方、興味をもつテーマの実現性、大学院での生活、博士取得後の就職状況、研究指導體制、カリキュラムと学生支援体制など、多岐に渡る質問があり、教員との活発な意見交換が行われました。「自分がやりたいことができるのか、考えることができました。どの先生方もとても興味深い研究をされていて、是非入学したいと思いました。」「研究



参加者の熱心な質問に丁寧に回答する水島助教

内容についてよく分かりました。可能でしたら、進学希望者向けに大学院生の声も聞きたかったです。」という声も聞かれました。

この説明会が、本専攻のことを知る一歩となり、オープンキャンパス、体験入学への参加に結びつき、さらには具体的な意思を持った進学希望者が増えることを願っています。

【プログラム概要】

第1部

13:00-15:00 講演「生命共生体進化学専攻における研究の最前線」

① 「動物は情報をどのように伝え合っているのか？」

准教授 沓掛 展之

お辞儀をしても許してもらえないミーアキャット。指を目に入れるオマキザル。優雅に踊るタンチョウのつがい。言語を持たない動物も、様々な信号（シグナル）を使って情報を伝えています。動物行動学の諸理論を用いると、動物が何を伝え合っているか、動物が何を考えているか、その一端を明らかにすることができます。本講演では、一見すると奇妙な動物のコミュニケーションを紹介しました。また、大学院生が研究を開始し、野外調査を経て、どのように研究を完成させるのか、その過程も紹介しました。

② 「アメリカ大陸への現生人類の移動～遺伝子からわかること～」

講師 五條堀 淳

およそ2万年前の最終氷期の頃は、現在より海面の水位は低下していました。そのため、現在のベーリング海峡はベーリンジアと呼ばれる陸続きになっていました。この時にヒトがアジアからアメリカ大陸へ移動しました。しかし、その当時の北米大陸では巨大な氷床が発達しており、ベーリンジアより先へのヒトの移動を阻害していました。氷河期後、氷床の退行に伴ってさらに移動を続けるのに、ヒトはアメリカ大陸の西海岸を南下する「海岸ルート」を経由したこと、最初にアメリカ大陸へ渡ったヒト集団が現在のアメリカ先住民の直接の祖先であることを遺伝学的な証拠とともに解説しました。

③ 「サラブレッドの遺伝学」

教授 印南 秀樹

競馬はブラッドスポーツと言われています。サラブレッドは、常により高いパフォーマンスを求めて、血統をもとに生産されているのです。しかしながら、良血馬と言われるサラブレッドのなかのサラブレッドが、必ずしも高い能力を持つわけではありません。また、まるっきり同じ血統背景を持った全兄弟の能力も大きく異なることが多いです。ここでは、血統だけでは語れない遺伝の法則があるからです。その遺伝の仕組みと現在最先端の遺伝学研究について紹介しました。

第2部

15:10-16:00 専攻説明会（専攻概要／カリキュラム・入試説明会／研究室紹介）

16:00-17:00 ポスター説明／個別相談

【総務課】

6/7

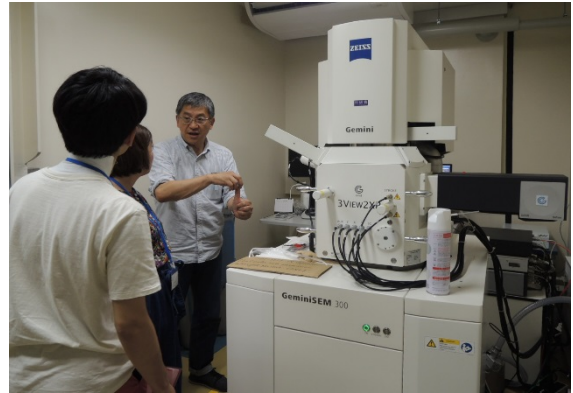
生命共生体進化学専攻オープンキャンパスを開催

生命共生体進化学専攻は、葉山キャンパスにおいて毎年2回オープンキャンパスを実施しており、6月7日（金）に本年度1回目のオープンキャンパスを開催いたしました。当日は遠方からもご参加いただき、4名の参加者にお越しいただきました。

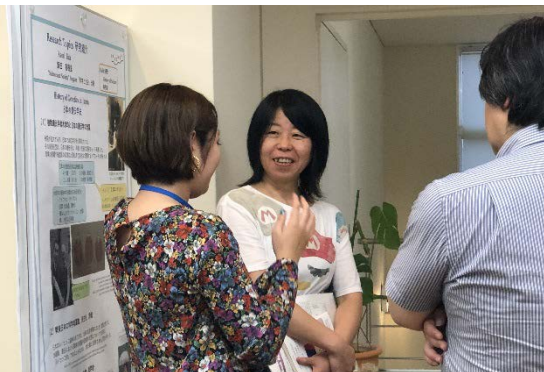
蟻川専攻長による「総研大と全学事業の紹介」、「生命共生体進化学専攻の概要説明」に続き、専攻5分野の研究内容紹介では各研究室や実験室を回り、直接教員、研究員や学生から研究の説明を聞く機会を設けました。

また、ポスター説明会・情報交換会では、教員や学生、研究員との懇談がもたれ、大学院での研究や学生生活のことなどを和気藹々と歓談していました。

参加者からは「たくさんの先生方とお話しさせていただくことができとても嬉しかったです。今後の自分のためにもなりました。」「さまざまな研究室の内容を良く知れました。少人数でラボを見学できたのがよかったです。」等の感想が聞かれ、大変好評をいただきました。【総務課】



最新機器（連続ブロック表面走査型電子顕微鏡（SBF-SEM））の説明をする蟻川教授



熱心な参加者の質問に笑顔で応える水島助教

【プログラム概要】

- ・総研大と全学事業の紹介
- ・生命共生体進化学専攻の概要説明
- ・カリキュラム・入試に関する説明
- ・研究内容紹介
- ・ラボ見学ツアー
- ・ポスター説明 & 情報交換会

7/29

～7/31

生命共生体進化学専攻 研究体験 2019

～生物進化の研究を体験しよう～

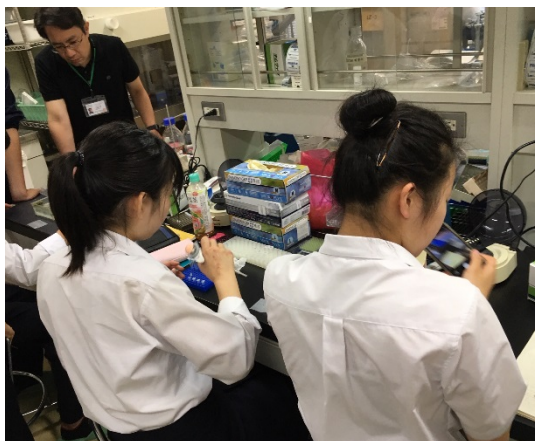
2019年7月29日から3日間、葉山キャンパスで生命共生体進化学専攻 研究体験 2019 が開催されました。研究の体験実習といえども新しい結果を得て研究の面白さを伝えることを目指しています。2つの高校から、合わせて9名の生徒と2名の先生が参加しました。

実習の目的は視覚関連遺伝子の適応進化を明らかにすることです。研究の面白さを伝えるため、始めに高校生にサンプルを集めることから行ってもらいました。具体的には日本近海で漁獲される魚類の組織サンプル(つまり切り身)を集めることです。実習を行った7月の終わりは気温が高く新鮮な状態で持ってくるが大変でしたが、高校生たちはサンプルとともに総研大葉山キャンパスにやってきました。

実習当日は昼に総研大に到着して午後には実験を開始しました。高校生は初めて扱うピペットマンに最初は戸惑い気味でしたが、五條堀講師の熱心な指導のもと少しずつ使いこなせるようになりました。

初日はゲノム DNA 抽出と精製、PCR による視覚関連遺伝子 (RH1) の増幅反応までを行いました。2 日目は PCR による増幅の確認、DNA 塩基配列決定の反応と塩基配列の解読を行いました。今回は、参加者が持参したサンショウウオの DNA の抽出も行いました。高校生たちは見事に目的遺伝子を増幅することに成功しました。

今回用いた魚類では、アジ、カマス、クロダイなどは比較的浅い水深に生息し、こちらで準備したキンメダイは深い水深に生息しています。これらの魚から薄暗いところで物の輪郭を見る役割を持つ RH1 遺伝子の配列を決定しました。参加者の実験結果はとてもきれいで解析は順調に進みました。解析は高校から持参した PC にフリーの解析プログラムをいれて、高校に帰ってからも解析できる環境を整えて行いました。



今回用いた比較的浅い水深に生息する魚類では RH1 遺伝子のアミノ酸の先頭から 292 番目のアミノ酸がアラニンであり、浅い海での適応型であることが明らかになりました。そしてキンメダイでは 292 番目がセリンであり深い海での適応型であることが明らかになりました。これらの解析により海の深さに対する適応進化を明らかにすることができたことは、予想以上の成果でした。

生徒さんたちは3日間を楽しく過ごし、自信を少し身に付けた笑顔で手を振って帰って行きました。【先導科学研究科】



事務職員の意見交換会を実施（葉山キャンパス）

2019年7月26日（金）、葉山キャンパスにおいて、本年度の1回目となる「本学事務職員と基盤機関等職員との意見交換会」が行われ、各専攻の事務担当者や葉山本部の事務担当者など47名が集まりました。

最初に大場事務局長の開会挨拶と、長谷川学長の講話があり、次に事前に寄せられた6つのテーマについて意見交換を行いました。各専攻の取組事例の紹介があったほか、従来の事務手続きの改善案が提案されるなど活発な議論が交わされました。

閉会後は、先導科学研究科の施設見学会も行われ、参加者は実験施設などを興味深そうに見学していま

した。

総研大葉山本部と各専攻の担当者は、場所が離れていることもあり、普段は電話やメールで連絡をとりあって業務を行っていますが、今回の意見交換会は直接顔を合わせる貴重な機会でもあり、専攻を超え職員同士の親睦を深めることもできました。

2回目の意見交換会は秋に核融合科学研究所（物理科学研究科核融合科学専攻）にて開催される予定です。【総務課総務係】



意見交換会の様子

受賞情報

■ 令和元年 春の叙勲

【URL】 <https://www8.cao.go.jp/shokun/hatsurei/r01haru.html> (内閣府)

氏名	所属・役職	受賞名
木村 恵司	総研大 経営協議会委員	旭日大綬章
猪木 武徳	元文化科学研究科 国際日本研究専攻 名誉教授	瑞宝中綬章
高崎 史彦	元高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻 名誉教授	瑞宝中綬章
立本 成文	前人間文化研究機構長	瑞宝中綬章
花岡 文雄	国立遺伝学研究所長 生命科学研究所遺伝学専攻長	瑞宝中綬章

■ 比較文化学専攻 園田直子 教授 「文化財保存修復学会 第十三回学会賞」を受賞

【URL】 <https://jsccp.or.jp/award/index.html>

- 地域文化学専攻 川瀬慈 准教授 「第6回鉄犬ヘテロトピア文学賞」を受賞

【URL】 <https://www.asahi.com/articles/DA3S14111765.html>

- 国際日本研究専攻 君島彩子さん（修了生） 「第15回涙骨賞」を受賞

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/6262/>

- 核融合科学専攻 時谷政行 准教授
「第8回自然科学研究機構若手研究者賞」を受賞

【受賞のコメント】 この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄です。金属材料同士を強靱に接合できる「先進的ろう付接合法」の開発に成功しました。今後はこの技術を核融合炉開発含め幅広い学問分野への応用へと展開していきたいです。

【URL】 <https://www.nins.jp/>



- 遺伝学専攻 島田龍輝さん（D5） 「第52回発生生物学会 ベストポスター賞」を受賞

【受賞のコメント】 1細胞内での遺伝子発現を解析する single cell RNA-seq (scRNA-seq) という技術を使用し、マウス生殖細胞の発生を理解することを目的とした研究で poster 賞をいただきました。研究室のサポートのおかげで scRNA-seq を取り入れ、解析できていることに感謝いたします。また、遺伝研での発表手法に関する講義や議論のおかげで議論を深めることができました。

【URL】 https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2019/05/information_ja/ha20190527.html

- 遺伝学専攻 中沢信吾さん（修了生） 「時実利彦記念神経科学優秀博士研究賞」を受賞

【URL】 https://www.jnss.org/tokizane_kenkyusyou/list/

【URL】 https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2019/08/information_ja/20190809.html

プレスリリース情報

2019. 7. 5

オタマジャクシは成長とともに群れるルールを変える：サイズと血縁関係、双方を認識している証拠の発見

【研究概要】春先、池のなかで群れて泳ぐカエルの幼生（オタマジャクシ）を見かけます。目を凝らして観察してみると、大きさの異なる幼生が一緒に泳いでいることがあります。これらの幼生は兄弟姉妹とは限りません。一つの池には複数のメスが産卵するため、血縁関係にない幼生が混ざることになります。それでは、幼生は、誰と、どのように群れるのでしょうか。今回のヤマアカガエルの幼生を対象にした研究で、我々は、幼生の発達段階によって、群れる相手の好みを変化することを発見しました。その際、幼生は、相手の大きさと血縁関係の両方を同時に考慮していました。サイズと血縁関係が両方関わる社会的選好性の報告はこれまでに例がなく、本発見によって幼生が群れを作る際のルールが世界で初めて明らかになりました

【論文情報】 Hase K, Kutsukake N. (in press) Developmental effects on behavioural response for social preferences in frog tadpoles, *Rana ornativentris*. *Animal Behaviour*

DOI: [10.1016/j.anbehav.2019.06.001](https://doi.org/10.1016/j.anbehav.2019.06.001)

【著者】長谷和子（総合研究大学院大学・先導科学研究科・特別研究員）

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/6276/>



ヤマアカガエルのおたまじゃくし

2019. 8. 5

日本のサラブレッド370頭のゲノム解析：サラブレッドが速く走れる遺伝的背景を解明

【研究概要】サラブレッドは、より高い競走能力を獲得するべく品種改良されてきました。ごく限られた数の優秀な牡馬（オス）のみが、種牡馬として自分の遺伝子を子孫に残すことができます。本研究では、このような人為的な選択を継続した結果、サラブレッドのゲノムがどのように進化したかを解明しました。まず、ゲノム全体において非常に強いインブリーディング（近親交配）の痕跡を確認しました。また、ゲノム



サラブレッド。高い競走能力を獲得するため品種改良されてきた

中の特定の領域において、強い人為選択の痕跡を発見しました。この領域には、おそらく競走能力に関わる遺伝子が存在するものと思われます。すなわち、サラブレッドが他の品種に比べて速く走れる、その理由がこの領域に存在するということです。その他にも、ゲノムワイド関連解析という統計手法を使って競走能力の個体差に関わる遺伝子の候補を見つけました。ゲノム情報を品種改良に活用することが、近い将来に可能になることを示唆します。

【論文情報】 Genome-wide SNP analysis of Japanese Thoroughbred racehorses

Jeffrey A. Fawcett, Fumio Sato, Takahiro Sakamoto, Watal M. Iwasaki, Teruaki Tozaki, Hideki Innan

PLOS ONE 14: e0218407

DOI:[10.1371/journal.pone.0218407](https://doi.org/10.1371/journal.pone.0218407)

【著者】

ジェフリー フォーセット (理化学研究所・iTHEMS・上級研究員)

佐藤 文夫 (JRA 日高育成牧場・生産育成研究室・研究役)

坂本 貴洋 (総合研究大学院大学・大学院生)

岩寄 航 (総合研究大学院大学・ポスドク研究員)

戸崎 晃明 (競走馬理化学研究所・遺伝子分析部・専門役)

印南 秀樹 (総合研究大学院大学・教授)

【URL】 <https://www.soken.ac.jp/news/6276/>

メディア等出演・掲載情報

BS 放送開始 30 周年記念番組 「謎の天空遺跡 マチュピチュ大中継」 第 1 部・第 2 部

【概要】 NHK の衛星放送が始まって 30 年、そして BS4K の開局から半年を記念した特別番組。人気の世界遺産、ペルーのマチュピチュ遺跡から世界初の超高精細の 4K による生中継番組に關雄二教授が生出演いたしました。

【掲載】 比較文化学専攻 關雄二 教授

【日時】 〈NHK BS 4K〉 6 月 1 日 (土) 第 1 部生中継/ 6 月 2 日 (日) 第 2 部生中継

8 月 12 日 (月・休) 第 1 部再放送/ 8 月 13 日 (火) 第 2 部再放送

9 月 14 日 (土) ダイレクト版放送/ 9 月 26 日 (木) ダイレクト版放送

〈NHK BS プレミアム〉 6 月 1 日 (土) 生中継・収録/ 8 月 24 日 (土) 第 1 部再放送

9 月 14 日 (土) 第 2 部再放送

【URL】 <https://www4.nhk.or.jp/P5854/>

朝日放送テレビ「キャスト」

【概要】 吉田憲司教授が大阪にある自然災害伝承碑のひとつを訪れ、「津波の記憶を刻む文化遺産 一寺

社・石碑データベース」を紹介。

【掲載】比較文化学専攻 吉田憲司 教授

【日時】2019年6月24日（月）

【URL】<https://tvtopic.goo.ne.jp/kansai/program/abc/29026/832132/>

朝日新聞 朝刊 「殴り合いの文化史」他書評多数

【概要】『殴り合いの文化史』の著者、樫永真佐夫教授へのインタビュー

【掲載】地域文化学専攻 樫永真佐夫 教授

【日時】朝日新聞 朝刊 2019年6月22日（土）

週刊金曜日 5月10日発行/ サンデー毎日 5月26日発行/ MeetsRegional 6月1日発行

週刊文春 7月4日発行

【URL】<https://www.asahi.com/articles/DA3S14065568.html>

陸奥新報「雨雀の古里に感慨」他掲載あり

【記事タイトル】「雨雀の古里に感慨」黒石の記念館訪問 貴重な資料持参

【掲載】国際日本研究専攻 吉川 弘晃さん（D1）

【日時】陸奥新報 2019年7月20日（土）

津軽新報 2019年7月28日（日）

読売新聞 朝刊 「縄文論争」

【記事タイトル】「始まりの1冊『歴史覆し続ける新資料』

【掲載】日本歴史研究専攻 藤尾慎一郎 教授

【日時】読売新聞 朝刊 2019年8月18日（日）

日本経済新聞 朝刊 「イヌ・ネコはどこから来た？進化の謎 遺伝子で解明」

【記事タイトル】「イヌ・ネコはどこから来た？進化の謎 遺伝子で解明」

【掲載】生命共生体進化学専攻 寺井洋平 助教

【日時】日本経済新聞 朝刊 2019年8月11日（日）

NHK 総合「ダーウィンが来た！」

【出演番組】NHK 総合「ダーウィンが来た！」第610回「東京生きもの調査隊 春編」

【掲載】先端科学研究科 長谷和子 客員研究員

【日時】NHK 総合 2019年8月18日（日）19:30～

【URL】<http://cgi2.nhk.or.jp/darwin/articles/detail.cgi?p=p610>

Event Calendar イベント情報

日程	時間	イベント名称 (リンク)	実施専攻・基盤機関
2019/8/5-9/3	—	国立天文台・総合研究大学院大学サマースチューデントプログラム	天文科学専攻・国立天文台
2019/8/29-11/26	10:00-17:00	特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」	国立民族学博物館 (山中由里子教授)
2019/8/30	13:00-17:30	生命科学研究所・基礎生物学専攻 大学院説明会・オープンキャンパス	基礎生物学専攻・基礎生物学研究所
2019/9/3	13:45-17:00	学生向け科学講演会	核融合科学専攻
2019/9/20	13:00-17:00	文化科学研究科 地域文化学・比較文化学 専攻 オープンキャンパス	地域文化学・比較文化学専攻
2019/10/10-12/24	10:00-17:00	企画展「アルテ・ポプラーメキシコの造形表現のいま」	国立民族学博物館 (鈴木紀教授)
2019/10/10	13:00-15:00	国際日本研究専攻入学試験説明会	国際日本研究専攻・国際日本文化研究センター
2019/10/31	13:30-17:00	2019 大学院入試説明会 (第2回)	核融合科学専攻
2019/11/3	10:00-12:00	第21回先導科学研究科・学術講演会	生命共生体進化学専攻
2019/11/8	15:00-16:00 全体説明 16:00-教員との面談等	統計科学専攻 大学院説明会	統計科学専攻・統計数理研究所
2019/11/13-11/25	—	阪急アートギャラリー 国立民族学博物館 コレクション「世界のかわいい衣装」	国立民族学博物館 (上羽陽子准教授)
2019/11/15	18:30-20:40	公開講演会「アニメ「聖地」巡礼—サブカルチャー遺産の現在」	国立民族学博物館 (飯田卓教授)
2019/11/16	12:30-16:00	国立遺伝学研究所 公開講演会 2019	国立遺伝学研究所
2019/11/16	13:00-17:00	生命共生体進化学専攻説明会・講演会	生命共生体進化学専攻
2019/11/23	13:00-16:30(予定)	人文機構シンポジウム「この世のキワー自然と超自然のはざま」	人間文化研究機構 (山中由里子教授)
2019/11/30-12/1	—	総研大文化フォーラム 2019	文化科学研究科

※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

お知らせ

■ 編集後記

2019年8月5日 葉山キャンパスのうさぎ 木陰で避暑
今年の11月号のニューズレターにもお目見えした葉山キャンパス在住の野うさぎ。今回は、キャンパス内の木陰で暑さをしのいでいる姿を見せてくれました。

発見した清掃作業員さんによると、このうさぎ、「ピーターラビット」にそっくりで、共通棟前の芝生でたまに見かけるそうです。うさぎにとっても酷暑は堪えるようで、涼しい植え込みの隙間でずっとお昼寝を楽しんでいました。

(広報社会連携係 Y. I.)



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2019年8月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2019 SOKENDAI